神奈川大学非文字資料研究センター

「川合安平上海写真コレクション」の世界　写真展

非文字資料研究センターの租界・居留地班は、2022 年に、川合康夫氏が所蔵する「川合安平上海写真コレクション」（約 1200 点）の寄贈をいただいた。川合安平（かわいやすへい）は、1912 年に生まれ、1940 年 8 月に佐世保海軍鎮守府で服務を始め、間もなく、支那方面艦隊設営部に配属を命じられ、1945 年 3 月までのおよそ 4 年半の間、海軍軍属（建築技師）として上海時代を過ごした。戦後は大阪の安井建築設計事務所で定年退職まで勤務し、2001 年に亡くなった。

日本の上海都市研究は、中国の都市研究の中でも多くの研究が蓄積されている分野で 1990 年代と 2000 年代には、日本上海史研究会による一連の論文集が刊行され、租界・居留地班でも『中国における日本租界―重慶・漢口・杭州・上海』（2006 年）、『東アジアにおける租界研究―その成立と展開』（2020 年）という研究成果を発表している。

ところが、1941 年 12 月の太平洋戦争以降の上海が日本に占領された、いわいる「孤島時代」に関連する写真資料は、支那派遣軍の検閲を通過した一部の写真と『支那事変画報』などに掲載された報道写真が殆どで、川合さんのような個人が撮影した写真で、撮影の日時と場所、そして、カメラの絞り値までを克明に追える資料は稀有な記録であるといえる。今回の展示は、川合さんの寄贈アルバム 2 冊の中から、（１）黄浦江とバンドの風景、(2)上海の歴史建築、(3)中国人の生活、(4)日本人と外国人の生活に関連するテーマの写真を主に取り上げた。戦時上海の日常生活を垣間見る貴重な機会としたい。

会期：2024年6月26日(水)～7月6日(土)
場所：みなとみらいキャンパス１F
時間：9：00～18：00

※日曜、祝日は閉館です。その他、臨時閉館などの情報はホームページでお知らせします。

お問い合わせ先：神奈川大学非文字資料研究センター